

## 第4回委員会（平成25年12月19日） 主要意見要旨

## （全体）

- ・ 取組施策を短・中期の時間軸により明示することで、民間がプロジェクトを展開する上での拠り所となる。

## （物流・産業）

- ・ コンテナ船の大型化の動きが想定以上に進んでいる。既存の岸壁及びクレーンの規格では1万TEU積載船への十分な対応ができない。ユーザーの要請を踏まえ、新興津CT3バース目を水深16mで計画できないか。
- ・ 水深16mバースの検討にあたっては、国際コンテナ戦略港湾政策との調整が不可欠。当面の対策として、現行18列対応の3基のガントリークレーンを、リプレイス時に22～23列対応へ機能アップすることが考えられる。
- ・ 今後の大型化の動きを見極めながら、どのタイミングで機能拡充を図っていくか検討が必要。
- ・ 3バース目の規格については、例えば15～16mのような幅を持たせた表記の仕方が可能か、要検討。
- ・ 物流量及び船型の予測は、みなとづくりを進める上では重要なポイント。コンテナ需要予測については、長期106万TEUの実現に向けたプロセス方を説得力ある形で示すことが大事。

## （防災・危機管理）

- ・ みなとBCPの策定にあたっては、企業のBCPと重なる部分やトレードオフできる部分など民間の取り組みとの組合せで考えた方がよい。
- ・ 津波の河川遡上対策については、河川局と港湾局との連携した取組が必要。
- ・ 田子の浦港は、災害時においてエネルギー拠点としての迅速な対応が可能となるよう、オープンスペース等のハード整備やBCP対策が不可欠。

## （交流・生活・環境）

- ・ クルーズ需要は今後さらに高まることが予測されている。従来の船会社主体の誘致に加えて、旅行会社が船をチャーターしてクルーズ企画するスタイルが増えている。手頃な料金設定で日本人もそのターゲットになりつつある。
- ・ クルーズ計画は大体2年前には決まる。9万GTクラスの大型クルーズ船が安全に寄港するための港づくりを早急に行うべき。安心して積極的な誘致活動をしたい。
- ・ “ふじのくに 食の都づくり”との連携策の一つとして、クルーズ船寄港時に船内で静岡の食を楽しめるような企画があると良い。
- ・ 湾内海上ネットワークの拡充については、駿河湾だけではなく背後地域を含めたエリア全体として需要面を検討しながら、実現に向けた取り組みを進めることが必要。市民の港への愛着の高まりをもたらす大事な施策の一つ。